

月刊

# エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2016年(平成28年) 4月号 第20号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数  
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

## 第15回 高齢者のクルーズ旅

昨年、横浜で見送った老夫婦との再会は南米チリの港町だった。

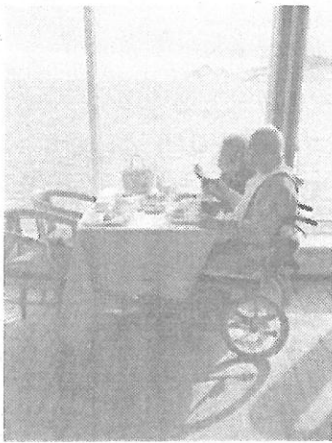
毎日、朝食会場で交わされる「おはよう」の挨拶は、主人の顔を覗き込むようにしてかけられる。みんな無事に朝を迎えたことを喜んでくれているかのようだ。中には肩をたたく握手を求め人ささえる

### 「楽」「お得」と人気の船旅

が、長旅をともにする船内では、その光景も日常になっていく。

船旅では杖を持つ人、歩行器や車いすを使う人の姿もよく見る。お一人様でもすぐに友達がみつかることや、家庭的な船内の雰囲気、日本語を話す外国人クルーが親しみをこめて接してくれることが船旅人気の理由にある。なによりクルー

ズ船は「動くホテル」ともいわれ、荷物移動の心配がない。夫人に船旅の魅力を尋ねると「楽だから」との答えが返ってきた。高齢者への配慮が行き届いたアクティビティは充実してい



▲海を眺めながらの朝食はクルーズの醍醐味

「陸が上がったら、絶対にやらない」と言いながら、デッキの輪投げゲームに熱くなっている老紳士のひと言が、周囲を和ませていた。

て、講座やイベントも盛り沢山だ。健康に配慮された食事は、目覚めてから夜寝るまでいつでもとることができ、普段馴染みの少ないカードゲームやカジノなど、体だけではなく脳を鍛えるメニューもある。そうしたことを煩わしいというなら、海風に吹かれ、プールサイドで音楽でも聞きながら読書を楽しむという手もある。これらをトータルで考えれば、クルーズはかなりお得な旅だろう。

そんな他愛ないことを私が思う間も、夫人はずっと針仕事をしている。額に汗して働いたから、こんな旅もできるようになったという。旅慣れた二人はすでに自宅を手放し、施設を出されるたびに旅行へ出てきたそうだ。これが最後と言いつつ、次は宇宙旅行しかないという夫人は真顔だ。



### 介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長  
篠塚 恭一



1961年千葉県市生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長